



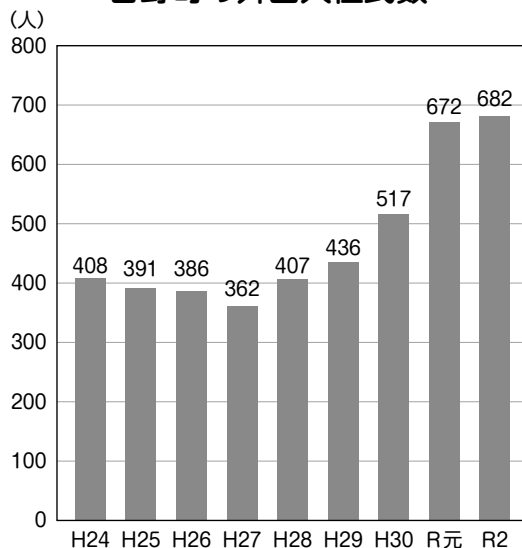
～外国人とともに～

多文化共生のまちづくり

日野町の国別外国人数と割合
(令和2年12月末)

	国籍または地域	人数	割合
1	ブラジル	267	39.1%
2	ベトナム	210	30.8%
3	フィリピン	45	6.6%
4	中国	40	5.9%
5	韓国	37	5.4%
6	ペルー	23	3.4%
7	タイ	12	1.8%
8	インドネシア	8	1.2%
9	ネパール	8	1.2%
10	ポリビア	7	1.0%
11	ミャンマー	7	1.0%
	その他	18	2.6%
	合計	682	100.0%

日野町の外国人住民数



5年間で約2倍に急増

日本の外国人人口は約287万人(令和2年12月末)で、過去最高を記録しました。社会のグローバル化が進むなか日本の人口減少が進み、外国人の皆さんが地域で安心して暮らすことは、喫緊の課題といえます。

日野町に住む外国人は682人(令和2年12月末)で、平成27年度から約2倍となっています。外国人住民の比率は3.2%と県内でも6番目に高い割合です。ブラジル国籍の方が一番多く、ベトナム、フィリピン、中国、韓国と続きます。

このような状況から、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的差異を認め合い、地域社会の構成員として共に生きていく「多文化共生」の地域づくりが必要となります。

町が事務局を務める日野町国際親善協会では、ブラジル国インブ市や韓国恩山(うんざん)面と定期的に姉妹都市交流を行っています。そのほか、町内のご家庭で一泊二日のホームステイを受け入れていただくスタディツアーや外国語講座、国際文化を学ぶ研修、氏郷まつり、楽市楽座への出店を実施しています。

国籍やルーツに関係なく、すべての人が安心して暮らせる「多様な社会のあり方」を一緒に考えてみましょう。

あいさつしてもらえると

「私のごと気にしてくれているんだ」とうれしくなります

●日野町の印象

東京で仕事をしていたこともあり、日野町は東京とは雰囲気の違いが感じられました。日本に来る前から、田舎に住むことに憧れがありました。畑をしていて、花が咲いたらわくわくします。チューリップが咲くのが春の楽しみです。静かでいい所です。フィリピンに帰ったとき、うるさくて眠れなかったです。

また、周りの方がすごく優しいです。あつれいしてもいえる「私

のごと気にしてくれているんだ」とうれしくなります。野菜やお米をいただくこともあり、とても助かります。

●困ったこと

夫が支えてくれたので、車の免許をとってからは特に困ったことはありません。最初、関西弁は難しかったです。「ほかす」「えらい」ってなに?となりました。

日本語は、テレビアニメの「ドラえもん」を見て覚えました。子どもが見る用に作られているので

●集える場所があれば

子どもが学校に入学する前、友人から「日本語を話さなくていいめられた」「授業についていけなくて困る」と聞きすごく心配でした。幸い子どもはいじめもなく学校に通っていましたが、何か相談できる相手やサークルなど集まれる場所があれば良いなと思います。

●今後してみたいこと

外国人同士が集まれる場所があれば、日本語や日本での暮らし方、日本料理の作り方などを教えたいです。「子どもが給食で食べたものを家で食べたい」と話しても、親が作り方を知らない。「飲食店に入るのも、どういった店かわからないので不安がつて入れない」と聞きます。日本の料理は本当においしいので、そつした良さを伝えることで、日本の楽しみがわかると思います。

覚えやすいです。漢字は少し読めて、ひらがな、カタカナは読めます。書くのは少し苦手なので、もし日本語学校などが近くにあれば通いたいです。

大西ラッセルさん (佐久良)

フィリピンのマニラ出身。平成15年、結婚を機に日野町に移住。現在町内の工場働きながら、家事・育児に励まれています。



「やさしいほんご」を知っていますか？



「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した簡単な日本語のことです。

外国人住民の中には、「やさしい日本語」なら理解できる、という方がたくさんおられます。「やさしい日本語」は、日本人と外国人が地域で大切な情報を共有したり、互いに意思疎通を図ったりする助けになります。また、誰にでもわかりやすいように配慮されているので、外国人だけでなく、子どもや高齢者とのコミュニケーションにも役立ちます。

広報ひの4月号から「やさしい日本語」を使うためのポイントを紹介していきます。